Shoudouji News

唱導寺だより

第６号
2022.11月

法華経は日月と蓮華となり。
故に妙法蓮華経と名く。
日蓮又日月と蓮華との如くなり。

日蓮宗
延宝山
唱導寺

Shoudouji Information

今号の言葉

「蔵の財よりも身の財すぐれたり
身の財よりも心の財第一なり」

日蓮大聖人のお言葉です。
財産や健康は誰しもが望み求めるものですが、健全な心がなくては活かすことはできません。目には見えない心と向き合い、心を整え善根功徳を積むことこそが何事にも代えがたい宝なのです。

寺嫁のつぶやき…

皆さんこんにちは。
好評？につき今号でもつぶやかせてもらいます。
前号でも書きましたが、私の実家はりんご農家です。先日、息子と二人で実家の畑仕事の手伝いに行ってきました。仕事内容はりんごの周囲の葉をとっていくというものです。文章にすると簡単な作業に思えますが、意外に神経を使う作業なのです。なんと、もう来年リンゴになる新芽がでているので、それを取らないように、そしてリンゴを落とさないように葉を取っていきます。しかし、不慣れな私達はついリンゴを落としてしまうことも。りんごの収穫は今までも手伝ってきましたが、葉取りは初めての経験でした。こういう地道で大変な作業があるから、真っ赤で美味しいリンゴができるのだと身に染みてわかりました。

疲れたな…、と思いながら作業をしている時、りんごの神様と言われる木村さんの言葉が頭をよぎりました。「私達はリンゴを作っているというけれど、そうじゃない。リンゴが育つお手伝いをさせて頂いているだけだ」この言葉で目が覚め、そこからは謙虚な気持ちで葉を取らせてもらうことができました。

自分中心で物事を考えれば、不足や不満がでてきますが、何事も「させていただく」という謙虚な気持ちで行えば自然と感謝の気持ちが湧きあがってくることをリンゴの木に教えてもらった数日間でした。

当寺住職による「海應コラム」Vol.06

長引くコロナ禍で、「それって本当のところはコロナ禍を言い訳にしているだけじゃないの？」と感じること結構多くありませんか。

坊主として特に感じているのは「一日葬」というご葬儀の在り方です。コロナ禍前からあったことはありましたが、コロナ禍になり「一日葬」が当たり前のような風潮になっています。コロナ禍にあって大勢の人が一同に集まることは難しい時期でしたので、小規模化することは仕様が無いことですが、通夜と葬儀とはお祈りすることが違うので、これは省略すべきではないです。勿論、確りと伝えてこなかった坊主に一番の問題はあるのは重々承知しています。（ここで説明をすると文章が収まらないので唱導寺のホームページをみてください。）極端な言い方ですが、お通夜の参列は喪主様お一人でもよいので執り行うべきです。

その昔、お通夜は自宅で家族と僧侶だけで行い、翌日の葬儀の時に棺をお寺まで担いで持っていき、有縁の方々が集い葬儀を行っていたこともあったようです。そんな形に戻していくのも良いのかもしれません。

亡き人の人生と遺徳に思いを馳せ、手厚く葬ることのできる文化（敢えて信仰と言わず）は、日本人の誇るべき民族精神であろうと思います。

日蓮大聖人曰く「まず臨終のことを習うて、後に他事を習うべし」

今号の一枚

雨乞いの滝

総本山身延山内にある日蓮大聖人の御廟所（お墓）から、さらに奥に入ったところに雨乞いの滝と呼ばれる滝があります。この滝を目的とする人以外は立ち入ることのない山奥にあり、古来より法華経行者の修行場とされています。本年は数年ぶりに雨乞いの滝で滝行をしてきました。

唱導寺だより 第６号

発　行◆令和4年11月15日

発行者◆日蓮宗延宝山 唱導寺

住職　菅野　海應
神奈川県横浜市港南区日野中央1の6の34
電話:045（842）2955
FAX:045（841）9600
www.shoudouji.org/

唱導寺第二世 行法院日龍上人 第二十三回忌

本年は平成十二年九月六日に世壽六十六才で遷化（僧侶が亡くなること）されました、唱導寺第二世行法院日龍（菅野海成）上人の第二十三回忌に当たりました。先代住職は私（現住職）にとりましては師父（師匠であり父）になります。

師父が遷化される約一月前の八月八日に私の長男が誕生しました。妻は実家のある青森で里帰り出産をしました。師父は病床ではありましたが、長男誕生の報に喜び自ら息子に「幸宏」と命名し、息子と対面することを楽しみにしていました。そんな中、容体が急変してしまい今生での時間の限りが見え、急いで家内に息子を連れて帰ってくるように告げました。羽田空港から入院をしていた横浜市大病院に直接行き、師父と息子の初対面が叶いました。起き上がる力が残っていなかった師父は息子をお腹の上に乗せろと言い、手を差し出して自ら命名した息子の名を呼び「良い子だ」と嬉しそうに息子を撫でてくれました。その夜、目を閉じてから意識が戻ることはありませんでした。最後に一目息子と対面できたことが最後の親孝行となりました。そんな息子も二十二才となり、来年は大学を卒業し総本山の修行に入る予定です。息子の成長と師父が見えなくなってしまった時間をいつも重ねながら、過行く時の速さを感じています。

第二十三回忌法要のご案内を発送する時期にコロナウィルス感染第七波が猛威を振るっており、皆さまにご参拝頂いての法要は難しいと判断し、寺族のみでの法要となってしまいましたが、報恩の誠を捧げさせていただきました。

七五三祈祷の後に

唱導寺護持会員募集

唱導寺には「護持会」という、お寺を守る会があります。会費はお寺の修繕費や御会式での奉納金等に使われています。広間のテーブルと椅子も護持会様からの寄進です。

皆さまに気持ちよくご参拝いただけるお寺であるために、是非皆さんのご入会をお待ちしております。

入会金1万円　年会費5千円

無料塾「てらこや」立ち上げ

お寺には様々な悩みを持った方が相談にいらっしゃいます。そんな中、様々な事情で子供の教育に時間もお金も掛けられないというお話しを伺うことが多くありました。現在の日本は経済格差が顕著になっています。そんな日本社会では保護者の収入が子供の学力に比例するという統計もでているようです。子供達にとって学力が全てではありませんが、将来の自分の可能性を広げる大切な要素であることは間違いありません。経済的や様々な事情で有料塾に通うことは難しいが勉強をしたいという子供達に勉強をする場所を作りたいとの思いが強くなり、昨年の四月に唱導寺会館を会場として無料塾を立ち上げました。

とは言っても、立ち上げてから半年間は申し込みゼロ。この地域では必要ではないのかな？と思っていた十月に中学三年生からの問い合わせがあり、無料塾「てらこや」がスタートしました。私は勉強を教えることはできないので（勉強は苦手です）、優秀な当寺の護持会役員さんである永仮氏が賛同してくださり、第一号ボランティア講師としてサポートしてくれました。今年に入ってから参加の生徒さんが徐々に増え、現在では小学四年生から高校一年生（基本は小学五年生～中学三年生）までの十一名の生徒さんと十四名のボランティア講師さんが参加してくれています。ボランティア講師さんは大学生・元教員・元塾講師・社会人・主婦・僧侶等様々な経歴の方々です。

基本的に子供達が今日はこれを勉強したいと思う教材を持参して、ボランティア講師さんがそれぞれの学力に応じてサポートする形です。

また、休憩時間にはお寺にお上げいただいたお菓子の御下がりや、ご寄付いただいたお菓子を子供達と食べながら行っています。

勉強だけでなく、子供達の為に集ってくれたボランティア講師さんたちとの触れ合いの中で、人と人との関わりの大切さや、こういう大人たちが居るのだということを感じてもらいたい家でも学校でもない居場所の一つにしてもらいたいと思っています。

お題目の道場である唱導寺が、子供達の将来の道を開く場所になれればお釈迦様や日蓮大聖人も喜んでくださるはずです。皆様の周囲で無料塾を必要としている子供達がいらしたら、是非「てらこや」を教えてください。全力でサポートしていきます。

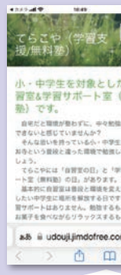
無料塾「てらこや」

開催日　毎週金曜日

●小学生
午後五時半～七時

●中学生
午後六時～八時半

様々な形でのサポートもお待ちしています。



唱導寺勧請の菩薩様・神様紹介 その1

第一回は慈母観世音菩薩をご紹介します。

唱導寺でお祀りしているご神佛の中で一番人気（言い方が申し訳ないです）の菩薩様です。観音様は救う相手により三十三種類のお姿に変身されるといいます。慈母観音様は子供を抱いているお姿の観音様で慈悲の象徴の菩薩様です。日々の安穏は勿論の事、家内安全・身体健全・子育て円満・子授け・水子供養等、参拝の皆さまは様々な思いを慈母観音様に念じていらっしゃいます。

毎月十八日は慈母観世音菩薩のご縁日で、唱導寺では十三時から慈母観世音菩薩祈祷会を開催しています。慈母観音様の御守護をいただき魔障なく、大難は小難に小難は無難にとのお祈りを捧げています。また、ご自宅で慈母観音像をお祀りの皆様は、月に一度の里帰りで御尊像をご持参され本堂にご安置してお祈りをさせていただいています。

どなたでも参拝できますので、お時間がありましたら慈母観音様に会いに来てください。